

フォークリフト年次点検(リーチバッテリー)

2016/8/23

①スチーム洗浄+バッテリー液補充+バッテリー充電

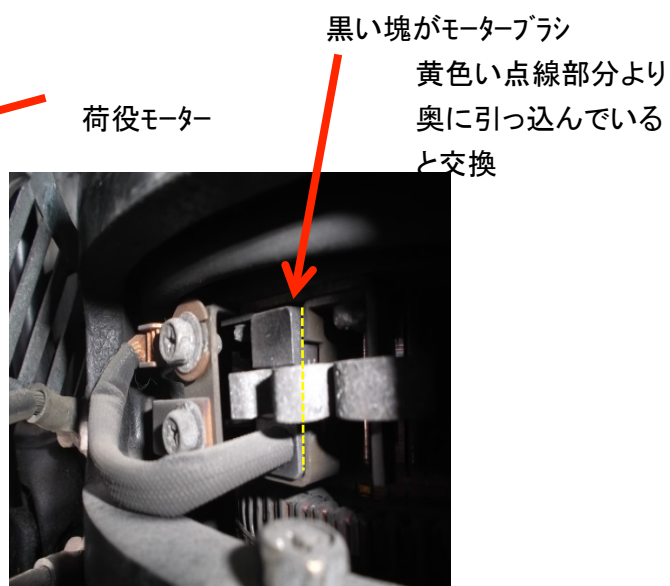
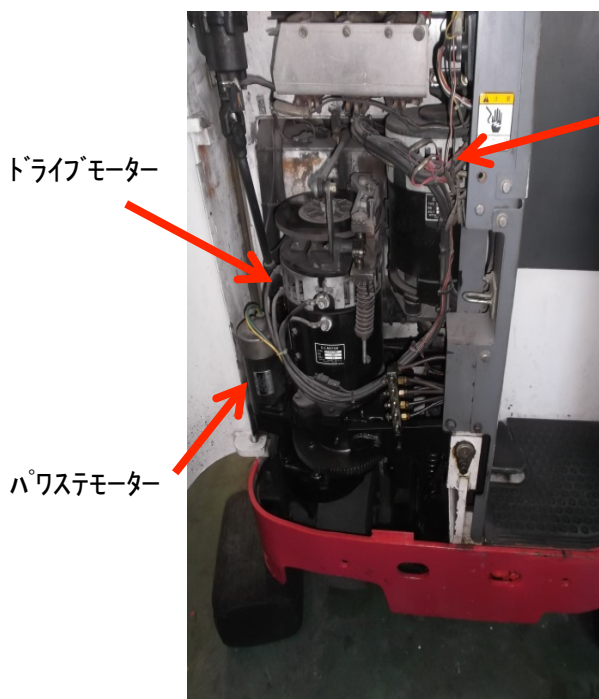
②ジャッキUP+ツメ保護のためカバーをかける



③モーターブラシチェック

(ドライブモーター・・・走行/荷役モーター・・・リフトの上下/パワステモーター・・・パワステ)

※ブラシとは電気を伝えるもの。



荷役モーター

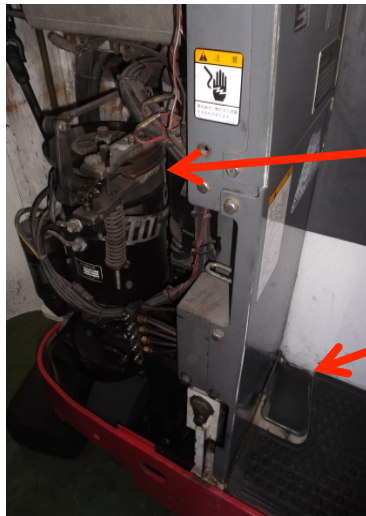
黒い塊がモーターブラシ

黄色い点線部分より
奥に引っ込んでいる
と交換

④エアブローで埃を飛ばす

⑤ブレーキパッドがすり減っていないかチェック

※リーチはペダルを踏むとブレーキが解除される



ブレーキパッド

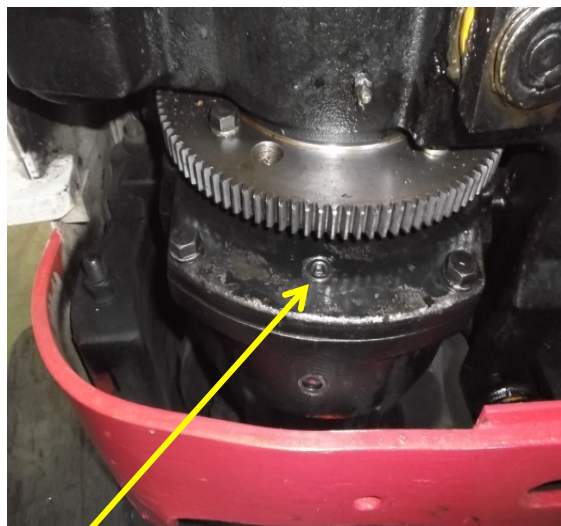
ペダル

⑥ドライブユニット内のギアオイル交換

※ギアオイルは漏れるのを防ぐ為、ゆっくりと入れること



ドライブユニット



ネジを締める時、金属の間の隙間をなくす為、シールを巻く

⑦ドライブタイヤのガタをチェック

※ドライブタイヤががたつくときは、ヘアリングのネジが緩んでいるので締め直すこと



ヘアリング



ドライブタイヤ

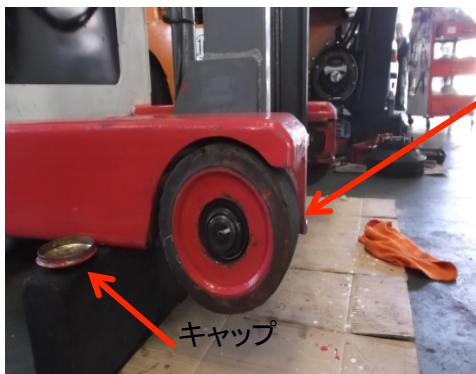
⑧マイクロスイッチ点検

⑨キャスタータイヤのガタをチェック



キャスタータイヤ

⑩ロードタイヤを外して付け根部分点検



ロードタイヤ

キャップ



⑪ロードタイヤ摩耗チェック(サビ・ヒビがないか確認)

※パーツクリーナーで汚れを落とし、レッドチェックし、1~2分放置

その後、パーツクリーナーを吹き付けエアブローで飛ばす(ヒビがあるときは、ヒビの中に赤色が残る)

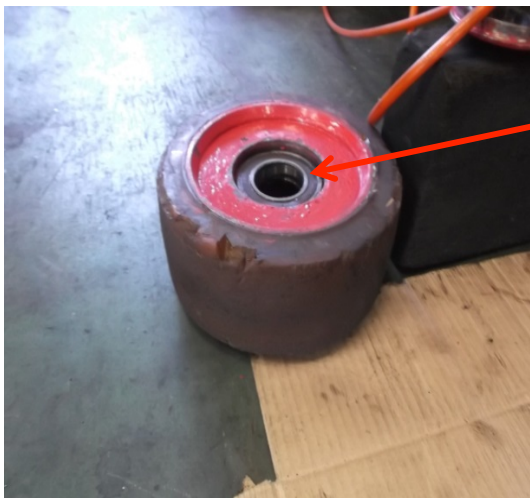
最後に、白いスプレーをかける



↑ 白スプレーをかけた後

⑫ロードタイヤベアリングチェック

※ベアリングからグリスが漏れ出ていないか、ベアリングが回るか確認



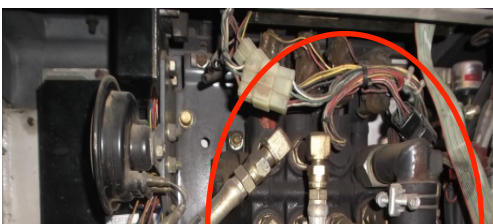
ベアリング

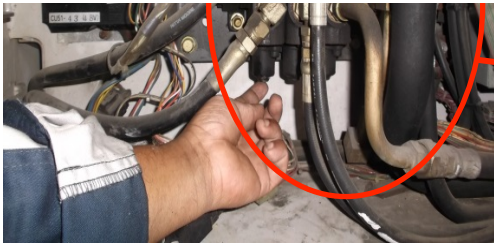
⑬ロードタイヤ取り付け

※グリスを塗ってすべりを良くすること

※タイヤも車体側・外側向きがある(外側を車体側につけると奥まではまらない為、よく分かります)

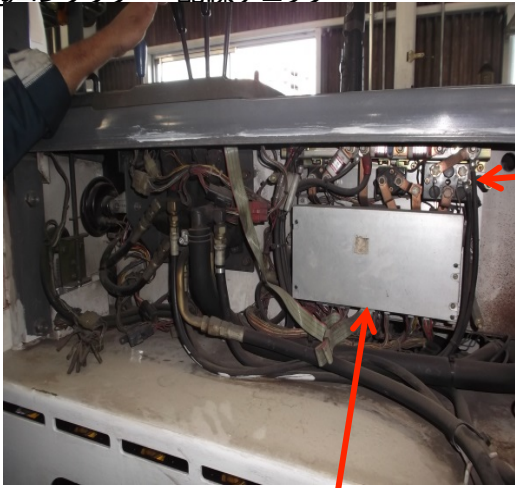
⑭コントロールバルブオイル漏れ確認





コントロールバルブ

⑮コンタクター・配線チェック



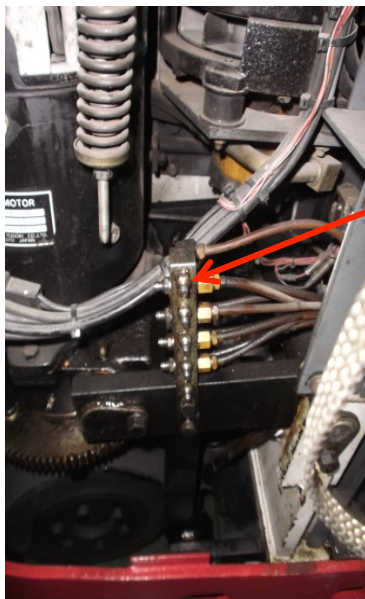
コンタクター(マグネットスイッチ)
電源on/off

基盤

⑯グリスアップ(マスト・ニップル)

※ブレーキペダル・キャスタータイヤにもニップルあり

※マストにグリスを塗る際、厚めに塗ると溶けて床にたれる恐れあり(クレームの元)



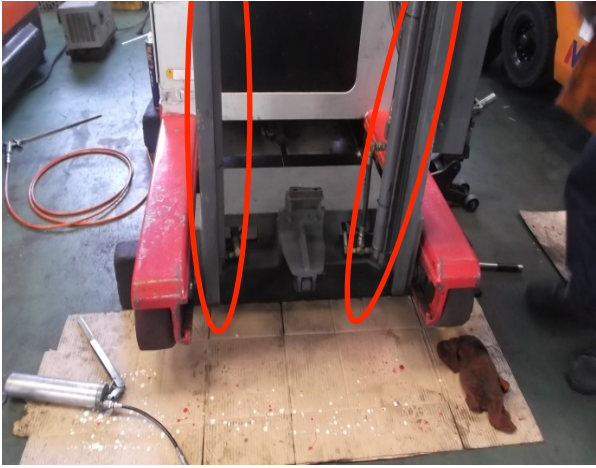
ニップル



ブレーキペダル



マスト(赤丸の内側にグリスを塗る)

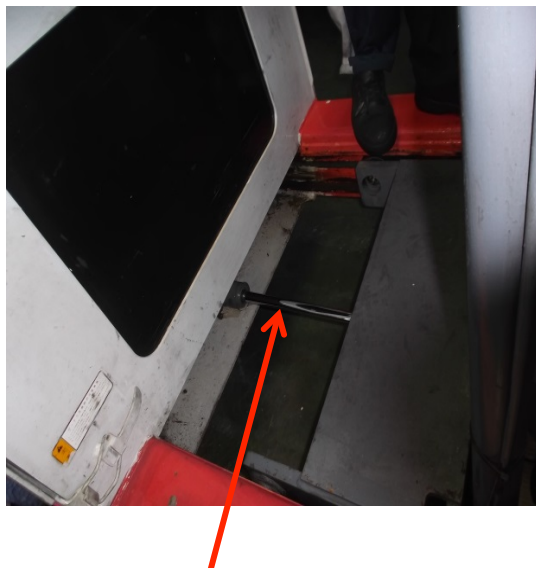


⑰チェーン・マストチェック

(リーチ用シリンダー・チルトシリンダー・マストシリンダーからオイル漏れがないか・ローラーの摩耗がないか確認)

※チェーンの間の隙間が大きいとたるみやずくなっている

※各ホースに亀裂が無いか確認



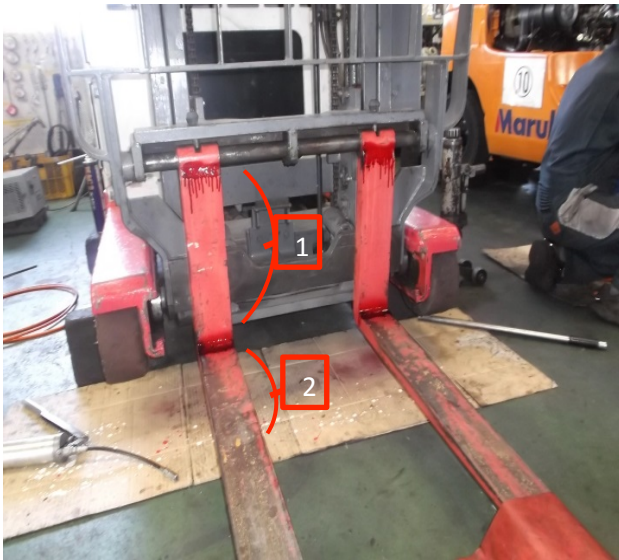
⑱バックレスト・マストグリスアップ

⑲フォークレッドチェック・厚みチェック

※ツメが勝手に下がらないかマストにシールを貼って30分程放置して確認

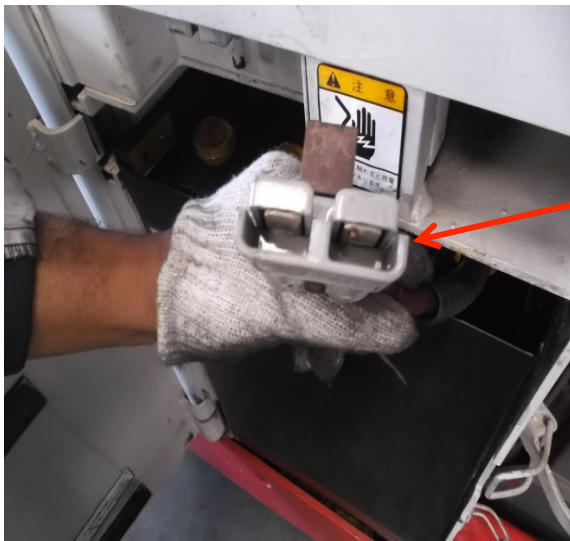
下がったらマストシリンダーO/H

※1の部分の厚みを測ってから2の部分で測る2の部分1より5mm以上減っていたら営業に報告)



⑳ リフトを降ろす
※ドライブタイヤの位置も元に戻すこと

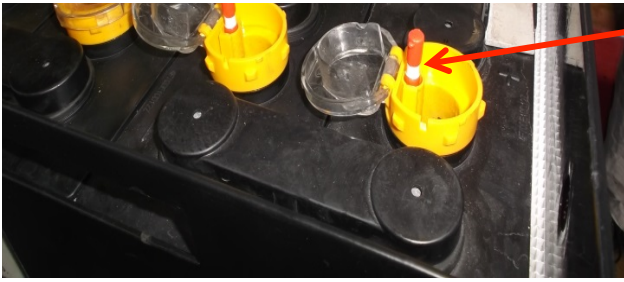
㉑ 充電コード焼きつきチェック



充電コード

㉒ バッテリー液チェック
※この時、バッテリー測定シート作成
※バッテリー液は希硫酸の為、服などに付くと溶けるため注意！





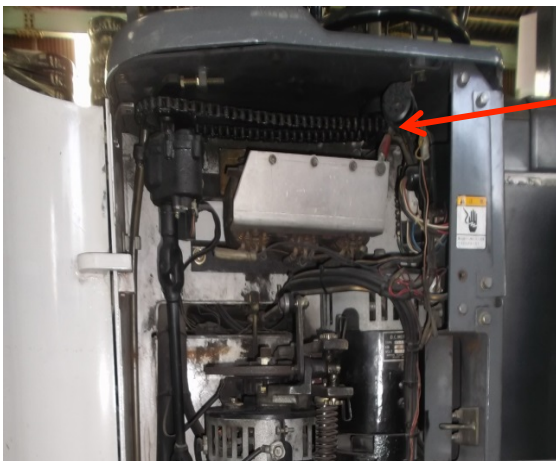
浮きがこの位置にくるようバッテリー液が入っているか確認



比重測定中

23 塗装

試運転をして、年次検査終了！



補足

ステアリングチェーン
ハンドルを回すとステアリングチェーンが回り、
ドライブタイヤが動く

